

「森林」と「幸福」と。

～森林所有者の本音から～



森林所有者の幸福度は？

幸せの国・ノース、世界幸福度ランキング[※]。急速に注目されるようになった「幸福」というキーワードですが、では、「森林」と「幸福」の関係は—？

「森林所有者の『主観的幸福度』は、非所有者に比べて低い」という、なかなかショッキングな調査結果があります(下図参照)。

※国連機関が世界幸福度調査の結果に基づき毎年発表。2012年に始まった。

深刻化する山離れ。

調査・研究を行なったのは滋賀県立大学環境科学部・高橋卓也教授。「日本の森林は量的にはすでに十分で、質の向上を目指す段階に入っているとされています。」

一方、森林所有者の山離れが続いており、2019年には、自ら経営できない森林所有者から市町村が経営を引き継ぐ森林経営管理制度も始まりましたが、現場の人員不足などにより必ずしもスムーズには進んでいません。森林の維持管理は社会全体で担っていく必要がありますが、まずは前提として所有者の実態を知るべきだと思われました(高橋教授、以下同)。

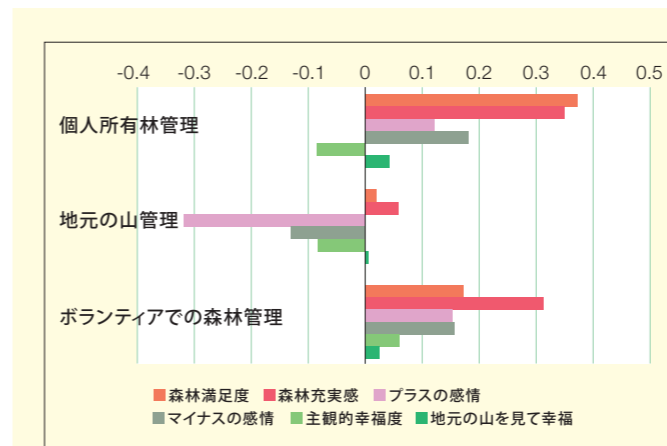
「主観的幸福度」という指標。

林家の保有山林面積や所得、経営や規模拡大に関する意向…こうした統計は存在します。が、高橋教授が着目したのは、「主観的幸福度(こゝろの自己評価)」という指標でした。

「所有者の山離れを防ぐ対策として、例えばTEEB(タイプ)[※]のような生態系サービスの経済的見える化や、森林経営計画の数理的最適化といった経済的・合理的アプローチも可能です。が、果たしてそれが本当に現場の人に求められている答えなのか、という思いは常々ありました。さらに今回、調査に先立ち対象区域の林業者・森林所有者などに「アリンクを重ね、森林に関わる喜びや誇り、あるいは怒りや悲しみといった感情に触れる中で、もっと別の視点—所有者の内面、主観に寄り添うこと—から見えてこないことがあるはずだ」と思ったのです。客観性を重んじる社会・自然科学において「主観=悪」ですが、あえて感情という側面からアプローチしてみよう、と。脳神経

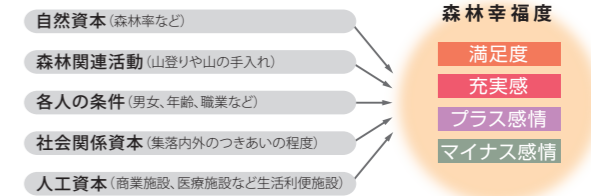
『森林幸福度』に関する調査・研究(抜粋)

～滋賀県立大学環境科学部・高橋卓也教授らによる～



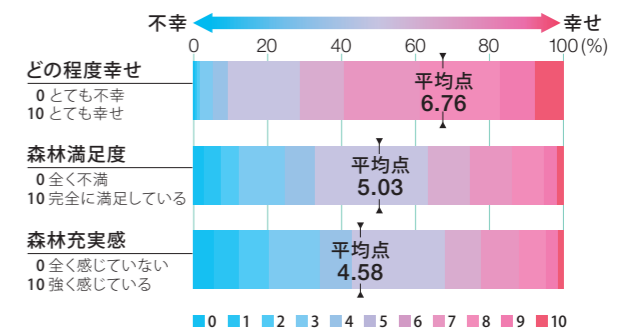
- 期間：2018年1月27日～4月5日
- 対象地域：滋賀県野洲(やす)川の上流域(甲賀町、土山町 計約18,000人)。歴史的に林業活動が活発な地域で、人工林率59%。甲賀ヒノキは良質材。
- 6,559セット(1世帯2件のセット)、回収数1,457件、世帯での回収率17.2%

■森林幸福度の決まり方モデル
4種類の森林幸福度を調査測定した。



満足度・充実感に関する調査

最初に、生活全般についての主観的幸福度を、「とても幸せ」(10点)から「とても不幸」(0点)まで11点制で1つを選択してもらった。続いて回答者と山や森林との関わりについて満足度や充実感、達成感を尋ねた。

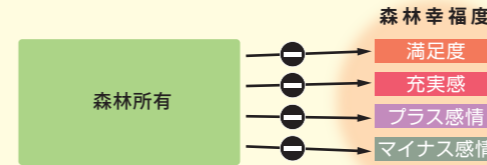


生活全般の主観的幸福度に比して森林満足度・森林充実感が低いという結果が出た。

感情に関する調査

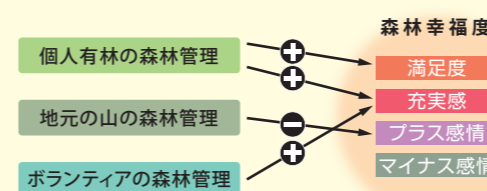
過去1年間の森林に関わる経験(キャンプ、スポーツ、動植物観察、森林づくりの活動など全11項目に加え、その他自由回答及び経験なし)について尋ねた後、それぞれについての感情(前向き、後ろ向き、楽しい、楽しくないなど全14項目)をどの程度経験したかを質問。各感情を因子分析の結果に基づいてプラス感情とマイナス感情に整理した。

■森林所有の森林幸福度への影響



森林所有は4種の森林幸福度を低くすることがわかった。またさらなる解析の結果、森林幸福度低下を緩和する要因として、財産区(共有林)の役員を務めること、所有森林の人工林率の高さ、所有森林の境界の把握程度の高さなどがあつた。

■森林関連活動の森林幸福度への影響



個人所有林、ボランティアの森林管理は森林充実感・森林満足度を高めるのに対し、地元の森林管理はプラス感情を低くするという結果が出た。

科学や心理学の分野でも、経済的・合理的にどれだけ正しくても人はそれだけでは動かない(感情が動かないと理性もうまく働かない)、幸福度が高ければ知能・創造性・エネルギーも向上する、などの知見もあります。何より、自然資源管理の究極の目標は「人びとの幸福」ではないでしょうか。

を解消するために、例えばPES(生態系サービスへの支払い)[※]なども積極的に取り入れていくべきでしょう。また調査では、「地域で共有する共有林(財産区)の役員などを務めている人は森林幸福度が下がりにくい」という結果が出た一方で、「ボランティアでの森林管理は充実感・満足度を高めるが、地元の森林管理はプラス感情を低くすること」もわかりました。地元の共有林の管理に強制参加させられることへの不満が現れた数字だとすれば、年功序列などの旧習を見直す必要があるかもしれません。

※ Payment for Ecosystem Services

所有者と受益者のギャップ解消を。

高橋教授は、滋賀県南部の上流域(森林地域)の住民を対象に、「森林幸福度(森林と関わることで得られる主観的幸福度)」に関する大規模なアンケート調査を実施しました。

集計・解析の結果、住民の生活全般の主観的幸福度に比べて、「森林満足度」や「森林充実感」は低めであること。さらに「森林所有は、満足度、充実感、プラス感情を低くし、マイナス感情を高くすること」がわかりました。

「森林の維持管理に対して所有者の負担感が大きくなっている。このことは、社会全体で受け止めるべき事実だと思います(山林という資産を持つ人の幸福度が低いはずがない、意外だ、という幾人かの方からの指摘には、所有者=負担者と国民=受益者の意識のギャップを改めて感じさせられました。こうした不平等

「幸福度」を森林施策の指標に。

「金銭だけでは測れない幸福度を政策指標に取り入れる動きは世界的に進んでいます。また、世界規模の取り組み「ミレニアム生態系評価」[※]では、私たち人間の豊かさ、幸福度には自然が大きく影響していることが示されています(そういう意味で、持続可能な森林管理のための「モニタリアル・プロセス」の基準・指標に幸福度の視点が十分に反映されていないのは残念なことです)。

今後、主観的幸福度という指標を国内の森林に関する施策や、様々な取り組みの立案、効果の検証においても活用し、社会全体で森林を考える新たな視点としていけるといって思っています。」

※国連の呼びかけにより実施された、生態系に関する大規模な総合的評価。

お葉書、
ありがとう
ございました。

SNSで情報発信中!

西垣林業株式会社
【公式】Facebook



西垣林業株式会社
【公式】Instagram

